

北海道各地から産出する黒曜石
その5あかいがわちいき
赤井川地域

(Akaigawa Area)

赤井川地域の黒曜石は、道内の四大産地の一つに数えられます。これまでの蛍光X線分析による研究によって、道南地方の遺跡から発見される黒曜石製の石器は、この場所で採取されたものを使用している割合が多いそうです。

この地域では、沢の中で見られるような転石、若しくは風化した粘土質の火山灰に富む堆積物中で採取可能です。いずれも赤井川組成グループになります。2004年に再度、赤井川を訪れた時は、山全体が削られており、そこから多くの黒曜石を採取できました。

ここでは、黒曜石の表面が小さな孔でおおわれたものが見られます。これは、黒曜石が火山灰質の酸性土壌中に長期間入っていたため、その表面や球顆の部分が溶けてしまって孔があいたと考えられます。これは実験で確認されました。また沢では、数mm程度の小さな球顆を層状に含み、流理構造を際立たせているものが多く見つかります。よく見かける赤井川産です。

他に球顆を含まない良質で漆黒色の黒曜石も採取できます。これらは分析すると化学組成が同じなので、全く別の黒曜石ではなく同じ黒曜石溶岩でも部分的な違いによるものと考えられます。割ってみると双方ともに貝殻状断口を呈し石器の材料として適しています。

噴出源ですが、これまでの調査では、一切確認できていません。しかし、中の沢川上流の三角点付近(613.5m)及びその北方の沢に、『人頭大ないし拳大の転石が点々として見出され・・・』(太田ほか、1954)と記載されているように、現在でも、その三角点より北西側の斜面の堆積物中には多数の黒曜石礫を採取することができます。従って、この三角点付近からその南側の669mのピーク付近までに、黒曜石の噴出源が存在する可能性があります(これは、私のこれまでの経験上、人頭大の黒曜石が見つかった場合、噴出源がすぐ近辺(数百m以内)にあることが分かっているからです)。黒曜石はすぐ側の土木川で採取できますが、赤井川村の南側、すなわち分水嶺を越えた倶知安町側では、黒曜石を確認することはできていません。

(学芸員 向井 正幸)



粘土化した火山灰中に握りこぶし大の黒曜石の角礫が多数含まれる(2004年調査時)。



数mm程度の球顆を層状に含んだ典型的な赤井川産の黒曜石。



酸性土壌中で表面が不規則に溶けて小さな孔で覆われている。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

